

# 英語学習におけるサクセスストーリーの作り方（2） －身体活動としての英語学習－

Creating Success Stories in Learning English (2)  
- Learning English through Physical Training -

畠 山 義 啓  
Yoshihiro Hatakeyama

## （要約）

学生の学びへのモチベーションを向上させるために、いかに学ぶ集団を形成していくのかを検討した。また、英語学習の成功体験を増やすための手段として、身体活動の一部に位置づけ、英文タイプ、筆記体の導入、英文回路形成の試みといった教育活動の検証と今後の課題を明らかにした。さらに、コンピュータを活用した、身体活動としての英語学習導入の可能性について検討した。

## （キーワード）

学ぶ集団の形成、身体活動としての英語学習、コンピュータ活用英語学習

## はじめに

学生の様子を見聞きしていると、昼食を誰と一緒に食べるのか、どのグループに入ることができるのかということが日常生活の中で大きな問題であり、そういったことで失敗すると大学に出てくることができなくなり、場合によっては退学するケースもある。すべての学生がそうではないが、友人関係がとてもデリケートであるとともに人ととの付き合い方が得意ではない学生が増加していることは事実である。語学といった授業は、言うまでもなく教師一人が話すのではなく、いかに多くの学生が授業に参加し、話すことができるのかということが重要である。学生間に目に見えないバリアのようなものが存在する中で、ペアワーク、グループワークを行うことの難しさがある。活気あるクラスとしていく方法は多種存在するであろうが、今回、Sean Paydon 氏の Classroom Group Motivation の理論に基づいて実践していくことを検討した。

また、英語学習を身体活動の一部と位置づけ実践してきたこと、英文タイプの指導、中学・高校で扱われていない筆記体の導入、英文回路の形成法についての評価をしていく。さらに、英語の発声法とリスニング力を伸ばすことに活用できるソフトウェアとウェブサイトについて検討した。これらは、学習者が発声する音声を録音できる、そしてその録音された音声が評価されるシステムである。音声が評価されるには、音の出し方、リズム、抑揚といった身体を活用した行動が求められる。この行為もまた語学学習の身体活動としてとらえることができると考えている。

## 1. 学ぶ集団としての仲間意識を育成

現在の学生の傾向は、友達作りがあまり得意ではない。気のあった仲間とグループを作り、排他的な雰囲気を持つこともある。また、グループ内での些細なトラブルで学業を続けることができなくなるこ

ともある。あるいは、他からは孤立している場合もある。このような集団がひとつの教室で学ぶ場合、どのように進めていくべきなのであろうか。

この問題を解決する大きなヒントとなったのが、JALT<sup>1</sup> NAGOYA MEETING での Sean Paydon によるワークショップであった。そのワークショップの概要は以下のとおりである。

How to develop classroom group dynamics to remove barriers to interaction, enhance student motivation and increase learning gains. Group dynamics can facilitate motivation by developing interpersonal trust and intensifying student bonding.

教室における学生間の壁を取り除き、学生の授業への取り組みを促進し、学習結果を向上させる、グループとしての活動集団を形成する方法とはということである。学生間に信頼と絆を生み出すことで活動集団が形成され、そのことが学生のやる気を向上させることになる。その理論は以下の図1に示すとおりである。

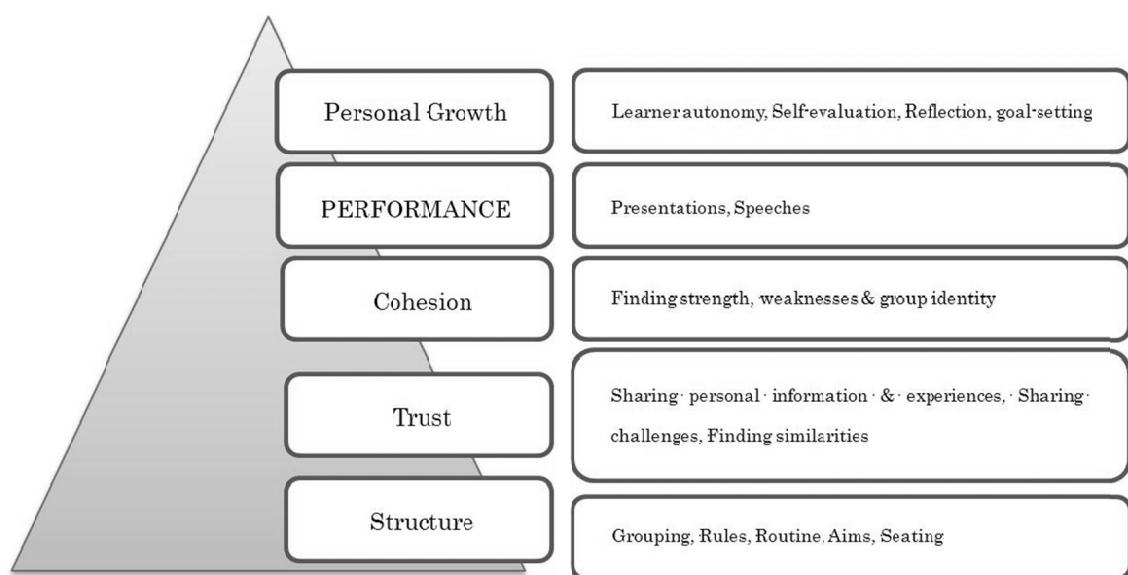


図1 Classroom Group Motivation

図1の左側の列にある、Personal Growth- Structure はワークショップにて Paydon が最初に提案したキーワードであり、右列はわれわれ参加者が発言し Paydon が書き留めたキーワードである。この理論とワークショップでの実践を踏まえて、具体的に教室での実践手順を整理した。

① Structure: 学生にこれから進めるグループづくりの基本的なルール、座席の配置方法を説明することである。“Make a big circle and make pairs.”, “Make blood type groups.”, “Do janken and winners tell your name to your partner.”といったように教師が指示をする。

② Trust: 学生たちが互いの名前、共通の好きなこと、嫌いなこと、共通の経験を共有することで、信頼関係を築くことができるようになる。そのためには、ペア、グループを交換しながら進め教室全体の学生がお互いを知ることができるようになる。“Ask your partner's name.”, “Find three same likenesses.”, “Find the same place where you have been to.”という指示をすることで徐々に学生たちの信頼が生まれてくるのである。

③ Cohesion: ペアを組ませて、自分の強みと弱みを相手に伝えさせる。相手のよいところを発見させる。ペアを何度も組み替え進めていく。ペアが変わるたびに名前の確認はさせる。クラス全体がお互いを把握できた時に、このクラスを1つのグループとした場合の特徴をまとめさせる。“Tell your strength to your partner.”, “Find your partner's good point.”などの指示を与える。

④ Performance: Cohesionのところでまとめたグループの特徴を代表を決めて発表させる。この時の発表は、単語の羅列だけでもよしとする。

⑤ Personal Growth: 以上のことから仲間意識を持った学びの集団が形成され、これが個人の自立、自己評価へと発展していくと考えられる。

そして、このグループ形成法を実際に活気のなかった英会話クラスで実践してみると、集団としての意識が芽生え、ペアワークでの会話練習もうまく機能するようになってきた。今後、この理論が通常の英語以外の授業にも応用できるのかどうかについても検証をしていきたいと考えている。なぜならば、集団意識が低下し学習意欲のない学生は英語クラスだけの問題ではないからである。

## 2. サクセスストーリーとして実践してきたことの検証

### （1）英文タイプ

英語学習をトレーニングとして実践していく典型的な手法と考えている。指に単語を覚えさせてある。練習を繰り返すことで、基本的な単語であればその単語を見た瞬間に指が勝手に入力するまでになる。オフィス人材育成学科では、1年次にほとんどの学生が日本語ワープロはタッチタイピングができるようになっており、キーの配列は説明する必要がないこと、学生用のコンピュータが十分に用意されていることから、英文タイプの導入は環境が整っているといえる。英文タイプは、インターネット英語の時間に導入した。ほとんどの学生は、英文を入力したことなく、最初は手間取っているが、少し

今回のタイピング結果	
あいにく本日は一日中外出しております I'm afraid he's left for the day.	スコア 256
彼が何時に戻られるかご存知ですか Do you know what time he'll be back?	レベル A+
お名前をもう一度教えていただけますか Could I have your name again?	入力時間 1分26秒39
ヤマダにおつなぎいたします I'll put you through to Mr. Yamada.	入力文字数 437
ご伝言を承りますか Could I take a message?	ミス入力文字数 24
	WPM 303
	正確率 94.5%
	苦手キー O E P B M

図2 e-typing スコア

慣れてくると入力のスピードが上がり、間違いも少なくなってくる。入力に慣れるために使用したのは、ManyThings.org にある Spelling & Typing Games である。実践的に使用したのは、e-typing 英語タイピングにある「スタディ」と「ビジネス」である。ここでは頻繁に出題される単語、英文をリストアップし参考資料として学生に配布しておいた。課題を与えてから 1か月ほどで、全体的な入力レベルが飛躍的に上がり、図 2 に示すように高スコアを出す学生も出てきた。学生たちは、キーボードを入力することに慣れているので、このトレーニングは大きなストレスなく受け入れられた。今後は、さらに進めて英文ビジネス文書のルールである、Letter Form, Punctuation Style, Special Marks を指導し、学生が実際に自分で文書例を入力することで、英語のスキルだけでなくビジネススキルの向上も期待できる。また、TOEIC の問題を文書例に使用することも有効な手段だと考えている。

### (2) 筆記体の導入

短大に入学するまで、学生はほとんど筆記体の読み書きをしていない状況がある中で、基礎英語の時間に筆記体の練習を導入した。使用したテキストは、「筆記体ワークブック<sup>2</sup>」である。学生たちは、大変熱心に練習に取り組み、受講者全員が筆記体の読み書きができるようになった。筆記体の練習に関する学生の意見は以下のとおりであった。

- ・筆記体を書けるようになったことが嬉しかった
- ・ブロック体と筆記体の形が全く違うので、面白いと思った
- ・きれいに書けるようになったので、メッセージカードに使っている
- ・書けるとカッコよくて友達からスゴイと言われた
- ・自分の名前が筆記体で書けるようになって嬉しかった
- ・英文を書くとき、つい筆記体で書いてしまうようになった
- ・筆記体の練習をもっとやりたい

以上の意見から筆記体を練習することに興味を持った学生が多いことがわかる。そこで、筆記体を習得したあとに、カリグラフィーの基本が習得できる内容を授業に取り入れていくことを検討していくたい。株式会社呉竹よりジグ カリグラフィーⅡ6色セットと「マーカーで書くカリグラフィー練習帳<sup>3</sup>」が内容と価格の上で適当な教材であると判断している。

### (3) 話すためのトレーニング 英文回路をつくる

「話すための瞬間英作文トレーニング<sup>4</sup>」を用いて、日本語を見てすぐに英文を考える。答えを確認して音読し、暗記するというトレーニングを基礎英語の授業の中で実践してきた。最初にテキストのねらいと使い方を説明し、教室で発声させ、また英文を何度も書かせた。そして、次回にテストをすることを繰り返してきた。中 1 レベルからスタートしていることもあり、学生には大きなストレスにはなっておらず、テストの平均点も 8 割を超えていていることから、卒業後の英語能力の基礎となることも期待で

きる結果である。今後、基礎英語の科目はカリキュラムから無くなるが、英会話、ビジネス英語の授業の中でも継続して使用していくことを検討している。

### 3. ウェブを活用したトレーニング

平成25年度より、人材育成学科オフィスコースの学生は、一人一台のノート型PCを持つことが予定されている。平成24年度入学生にはインターネット英語という授業があり、どちらの学年の学生にもウェブを利用した英語学習の導入を検討していくことができる。そこで、発音・リズム、リスニングという項目で導入できるソフトウェア、ウェブを検討していくことにする。

発声法に関しては、本学紀要30号「英語学習におけるサクセスストーリーの作り方」で英語音声の発声法については述べたとおりであるが、発声法が理解できたあとは、個々の単語の発音と英文のリズム習得をいかに進めるかである。自分の発生した音声が録音され、それが分析されるとともに評価されるというウェブを授業に取り入れていくことを検討した結果、以下のソフトウェア、ウェブを候補としている。

#### （1）MyET

株式会社アルクの「とことんスピーキング練習シリーズ」のためのソフトウェアである。MyETをインストールしてアカウント登録する必要がある。このアカウント登録により、自分の進捗状況が記録されていく。このソフトウェアの利点は以下のとおりであると分析した。なお、ここに挙げる項目は体験版でも同様に備えている機能である。図3は、MyETを起動し、発音練習をしているところを示している。

① Speech Analysis System（音声分析システム）を備えていること。自分の発生した音声の波形とTutorの波形を比較することができる。

② 自分の発生した音声が録音され分析されること。レッスンの後で、自分の音声を聞くことができる。それと同時に、Tutorの音声はノーマルスピード、スロースピードの2段階で何度も聞くことができる。

③ 受講したレッスン結果の分析シートを印刷できること。受講したレッスンのスコアと発音、ピッチ、リズム、強勢、母音、子音の分析結果を印刷することができる。

④ 一定の水準をクリアすると達成証明書を受け取ることができること。レッスンを一定水準以上でクリアするとメールにてCertificate of Achievementが送られてくる。このことにより達成感を得ることができる。

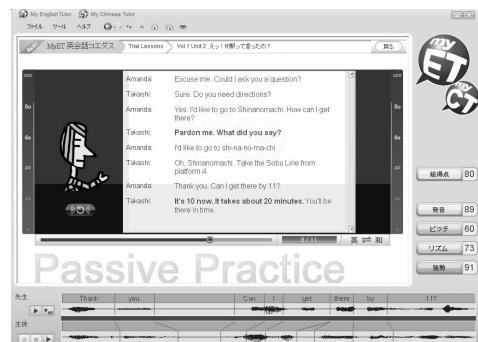


図3 MyET

## (2) English Central

English Central は、MyET 同様、有料語学学習サイトであるが、無料で多くの機能を利用することができる。このサイトの特徴は以下のとおりである。

- ①ビデオに日英両言語のスクリプトがついていること
- ②英語スクリプトの単語をクリックすると、音声・定義・発音記号・発音記号の個々の音声を見聞きすることができること
- ③ビデオで使われた単語の練習問題があること
- ④センテンスごとに区切られたビデオ音声のあとに、自分の音声を録音し何度も比較することができる
- ⑤すべての学習記録が残ること

以上の特徴に加えて、English Central の最大のメリットは、学校、クラス単位でグループを設定し、それぞれのグループに対して、1週間あるいは1か月の範囲で、適したカリキュラムを組むことができる。また、教師は、それぞれのグループに所属している学生の達成度を図4が示すように、Reportとして確認することができる。このReportでは、個々の学生のWatched Video, Learned Words, Speak Point, Spoken Video, Pronunciation, Course Completion, Lines Record, Number of Visits の項目を見ることができる。また、このReportはエクセルファイルで保存することが可能である。

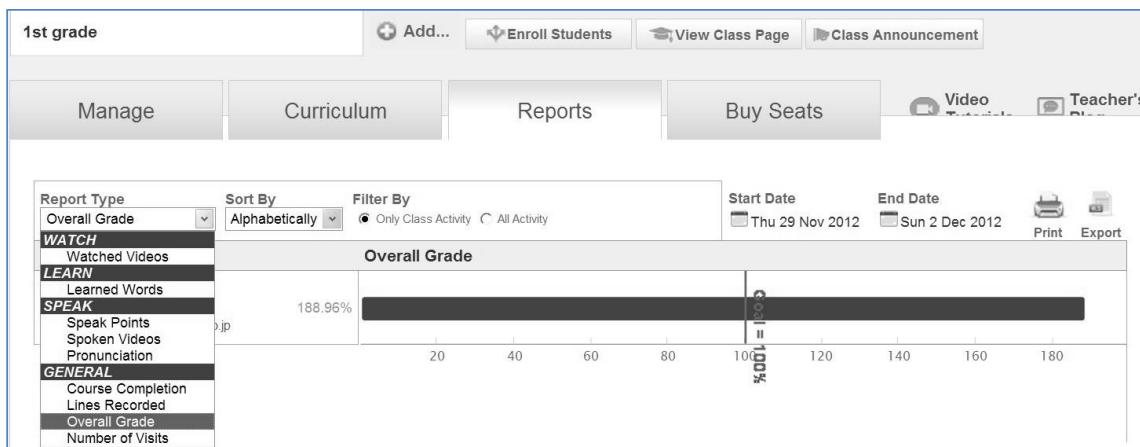


図4 EC Report <http://ja.englishcentral.com/teach#/manage/index/>

教材の難易度が上がるにしたがって、聞く・話すという行為は集中力と音を出すパワーが求められる。そのことこそが、英語学習の身体活動トレーニングとなり、体で英語を習得することになるといえる。カリキュラムの組み方、学生への導入の仕方、Report の管理とアドバイスといったことを十分検討しなければならないが、学生が自分のPCを持っており、英語能力を高めたい場合には有効なウェブサイトであると考えられる。

## おわりに

何をするにも、楽しくなければならない。そして、努力したことの積み重ねが蓄積されることがやりがいである。語学学習の怖さは、空白期間ができてしまうことである。しかし、継続は力なりという表現が当てはまるのも語学学習である。Sean Paydon 氏の Classroom Group Motivation の理論は、最初のステップでは、活気ある学ぶ集団の形成であるが、その到達点は、モチベーションある個々の養成である。この理論の実践によって、最終的にモチベーションを持った継続力のある学生を一人でも多く養成することができるならば、先ほどの語学学習の空白の問題は克服されると考えられる。

また、語学学習を身体活動の一部ととらえることは、語学学習の空白期間によって忘れ去られることを最小限に食い止めることができる。さらに、得意な身体活動を繰り返すことで、英語が得意、不得意にかかわらず、それぞれの学生の成功体験となり、学習のやりがいになってくるのである。

発音とリスニングのトレーニングのためのソフトウェア・ウェブサイトについて検討したが、いずれも指導の中で、発音記号が音声とともに使用されている。実は、発音記号も筆記体とともに中学・高校の英語教育で教えられなくなったもののひとつである。卒業していく学生に対して、最終学校として、あらためて発音記号を教える必要があると痛感した。

MyEt, English Central といったコンピュータによる英語学習の延長として、TED のウェブサイトが挙げられる。英語学習のリスニング力をつけることはいうまでもないが、日本人の不得意とするプレゼンテーション力の養成、多くの斬新な考え方の提示による視野の養成として有効であると考えている。

## 註

- 1 JALT : The Japan Association for Language Teaching, 全国語学教育学会
- 2 国際語学者編集部 編著 「すらすら書ける筆記体ワークブック」 2010 年 株式会社国際語学者発行 ただし、このテキストは後半の英文に何か所か文法的な誤りがあり、別のテキストを検討している
- 3 木作輝代 監修 「マーカーで書くカリグラフィー」 株式会社呉竹 発行
- 4 森沢洋介著 「話すための瞬間英作文トレーニング」 ベレ出版 2012 年